

第2章

---

新潟県立大学の記録



概要

新潟県立大学の開学以来、一般選抜においては他の国公立大学と異なる独自の日程(A日程、B日程、C日程)で個別学力検査を実施しています。これにより、他の国公立大学との併願が可能となり、全国から多くの志願者が集まっています。

入学者選抜実施結果(推薦入試・特別選抜・一般選抜)

学部・学科	募集人員	志願者数			志願倍率	受験者数			合格者数	実質競争率	入学者数					
		男	女	うち県外		男	女	うち県外			男	女	うち県外			
2009(H21)年度	国際地域	160	1,698		315	10.6	1,524		281	346		78	4.4	165		33
	人間生活	40	454	1,244	315	10.6	403	1,121	281	105	241	78	4.4	42	123	33
	子ども	40	483		106	12.1	454		97	78		25	5.8	40		9
	健康栄養	40	58	425	106	12.1	54	400	97	8	70	25	5.8	4	36	9
合計	240	2,472		506	10.3	2,226		448	487		128	4.6	245		56	
2010(H22)年度	国際地域	160	1,754		323	11.0	1,483		256	415		92	3.6	168		49
人間生活	40	547	1,207	323	11.0	459	1,024	256	151	264	92	3.6	51	117	49	
子ども	40	583		166	14.6	538		151	103		39	5.2	40		13	
健康栄養	40	75	508	166	14.6	69	469	151	13	90	39	5.2	3	37	13	
合計	240	2,684		618	11.2	2,329		514	587		169	4.0	249		86	
2011(H23)年度	国際地域	160	1,705		542	10.7	1,474		445	447		172	3.3	173		53
人間生活	40	552	1,153	542	10.7	478	996	445	131	316	172	3.3	45	128	53	
子ども	40	608		210	15.2	539		177	101		84	5.3	40		17	
健康栄養	40	58	550	210	15.2	48	491	177	17	84	48	5.3	6	34	17	
合計	240	2,686		618	11.2	2,341		795	616		261	3.8	254		92	
2012(H24)年度	国際地域	160	1,390		448	8.7	1,237		402	490		209	2.5	169		67
人間生活	40	441	949	448	8.7	394	843	402	176	314	209	2.5	45	124	67	
子ども	40	521		183	13.0	458		158	106		42	4.3	42		12	
健康栄養	40	57	464	183	13.0	50	408	158	12	94	42	4.3	1	41	12	
合計	240	2,223		793	9.3	1,962		698	668		293	2.9	258		105	
2013(H25)年度	国際地域	160	1,562		498	9.8	1,325		405	525		205	2.5	189		74
人間生活	40	506	1,056	498	9.8	438	887	405	199	326	205	2.5	60	129	74	
子ども	40	580		222	14.5	537		200	115		59	4.7	40		11	
健康栄養	40	75	505	222	14.5	71	466	200	21	94	59	4.7	4	36	11	
合計	240	2,497		896	10.4	2,179		758	709		295	3.1	269		102	
2014(H26)年度	国際地域	160	1,638		587	10.2	1,384		488	550		245	2.5	176		68
人間生活	40	587	1,051	587	10.2	494	890	488	214	336	245	2.5	52	124	68	
子ども	40	506		207	12.7	430		174	105		57	4.1	40		19	
健康栄養	40	56	450	207	12.7	49	381	174	21	84	57	4.1	4	36	19	
合計	240	2,435		951	10.1	2,059		789	719		340	2.9	256		112	
2015(H27)年度	国際地域	180	1,796		706	10.0	1,470		561	601		294	2.4	198		82
人間生活	40	586	1,210	706	10.0	489	981	561	198	403	294	2.4	58	140	82	
子ども	40	496		173	12.4	438		152	99		45	4.4	43		14	
健康栄養	40	43	453	173	12.4	38	400	152	12	87	45	4.4	2	41	14	
合計	260	2,602		1,045	10.0	2,161		848	772		381	2.8	282		119	

学部・学科	募集人員	志願者数			志願倍率	受験者数			合格者数	実質競争率	入学者数					
		男	女	うち県外		男	女	うち県外			男	女	うち県外			
2016(H28)年度	国際地域	180	1,680		642	9.3	1,375		529	582		247	2.4	222		93
	人間生活	40	565	1,115	642	9.3	483	892	529	203	379	247	2.4	68	154	93
	子ども	40	393		129	9.8	337		110	106		53	3.2	43		10
	健康栄養	40	31	362	129	9.8	28	309	110	16	90	53	3.2	2	41	10
合計	260	2,366		935	9.1	1,947		763	760		344	2.6	306		126	
2017(H29)年度	国際地域	180	1,762		729	9.8	1,513		613	593		298	2.6	190		90
人間生活	40	624	1,138	729	9.8	547	966	613	201	392	298	2.6	51	139	90	
子ども	40	412		165	10.3	368		146	107		61	3.4	40		12	
健康栄養	40	43	369	165	10.3	42	326	146	21	86	61	3.4	3	37	12	
合計	260	2,511		1,102	9.7	2,176		938	773		406	2.8	270		125	
2018(H30)年度	国際地域	180	1,769		630	9.8	1,494		528	511		217	2.9	191		68
人間生活	40	613	1,156	630	9.8	533	961	528	173	338	217	2.9	58	133	68	
子ども	40	390		163	9.8	337		140	108		62	3.1	40		13	
健康栄養	40	35	355	163	9.8	31	306	140	18	90	62	3.1	2	38	13	
合計	260	2,465		945	9.5	2,103		800	691		317	3.0	271		99	
2019(H31)年度	国際地域	180	1,790		672	9.9	1,529		559	417		170	3.7	180		77
人間生活	40	647	1,143	672	9.9	570	959	559	132	285	170	3.7	49	131	77	
子ども	40	405		157	10.1	355		133	100		57	3.6	40		12	
健康栄養	40	32	373	157	10.1	30	325	133	10	90	57	3.6	1	39	12	
合計	260	2,443		949	9.4	2,097		792	592		266	3.5	261		108	

※県外=出身高等学校等所在地が新潟県以外(国外を含む)の者及び高卒認定合格者

大学案内パンフレット



在籍者数

(単位:人)

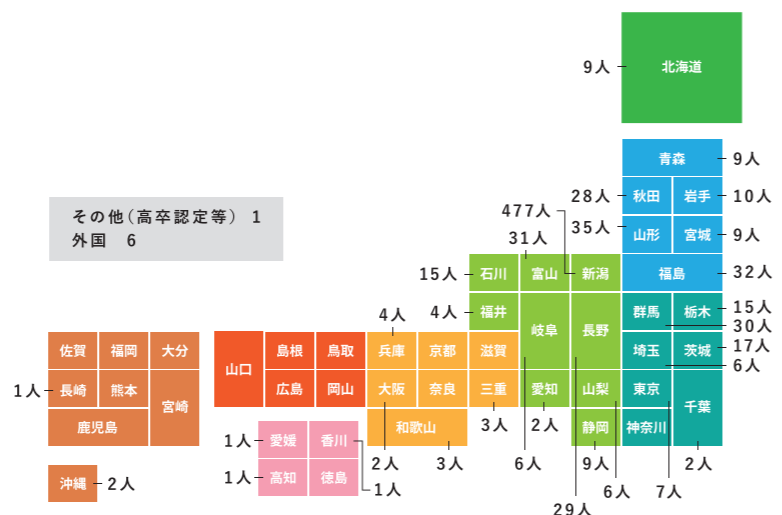
学部/学科 研究科/専攻	入学定員	収容定員	1年		2年		3年		4年		学年合計	
			男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計
【国際地域学部】 国際地域学科	180	720	49 131	180	58 131	189	50 135	185	80 179	259	237 576	813
【人間生活学部】 子ども学科	40	160	1 39	40	2 38	40	3 37	40	2 41	43	8 155	163
【人間生活学部】 健康栄養学科	40	160	1 40	41	1 39	40	2 37	39	2 38	40	6 154	160
総計	260	1,040	51 210	261	61 208	269	55 209	264	84 258	342	251 885	1,136
【国際地域学専攻】 国際地域学専攻	10	20	1 2	3	3 1	4					4 3	7

※過年度生は4年に含む  
※過年度生は2年に含む

学部学科・地区別在籍者数(出身高校所在地別)

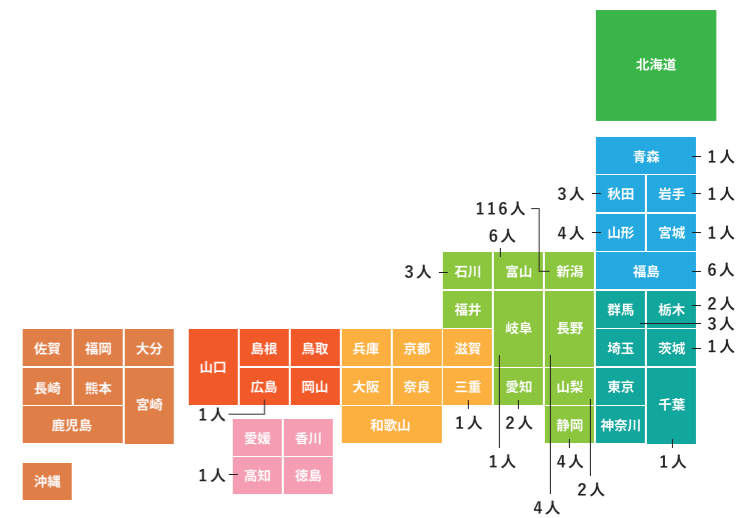
国際地域学部 国際地域学科 (単位:人)

都道府県	1年	2年	3年	4年	合計
北海道	2	5	2	2	9
青森県	2	3	3	1	9
岩手県	2	3	3	2	10
宮城県	1	1	1	6	9
秋田県	8	5	11	4	28
山形県	10	9	8	8	35
福島県	10	3	8	11	32
茨城県	3	5	4	5	17
栃木県	3	5	6	1	15
群馬県	7	5	9	9	30
埼玉県	1	2	1	2	6
千葉県	1	1	1	3	7
東京都	3	1	1	3	7
新潟県	103	123	97	154	477
富山県	4	5	13	9	31
石川県	3	1	6	5	15
福井県	2	2	2	4	10
山梨県	1	1	1	4	6
長野県	4	6	3	16	29
岐阜県	1	1	1	4	6
静岡県	3	3	1	2	9
愛知県	1	1	1	2	5
三重県	1	1	1	3	5
大阪府	1	1	2	2	6
兵庫県	1	1	2	4	8
和歌山県	1	1	2	1	5
香川県	1	1	2	1	5
愛媛県	1	1	2	1	5
高知県	1	1	2	1	5
長崎県	1	1	1	1	4
沖縄県	1	1	1	1	4
その他(高卒認定等)	1				1
外国	6				6
総計	180	189	185	259	813



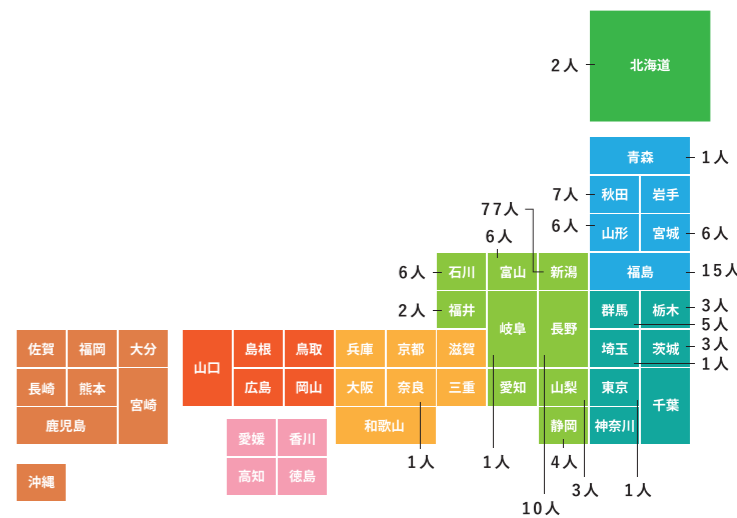
人間生活学部 子ども学科 (単位:人)

都道府県	1年	2年	3年	4年	合計
青森県		1			1
岩手県		1			1
宮城県	1				1
秋田県	1			2	3
山形県	1	1	1	1	4
福島県		4	1	1	6
茨城県			1		1
栃木県	1			1	2
群馬県	1	1	1		3
千葉県				1	1
新潟県	28	27	28	33	116
富山県		1	5		6
石川県	1	2			3
山梨県			1	1	2
長野県	2	2			4
静岡県	1		1	2	4
愛知県	2				2
三重県			1		1
広島県	1				1
高知県				1	1
総計	40	40	40	43	163



人間生活学部 健康栄養学科 (単位:人)

都道府県	1年	2年	3年	4年	合計
北海道		2			2
青森県				1	1
宮城県	1	1	2	2	6
秋田県	3		1	3	7
山形県	1	3		2	6
福島県	3	3	6	3	15
茨城県			2	1	3
栃木県		2	1		3
群馬県	3		2		5
埼玉県	1				1
東京都				1	1
新潟県	22	22	16	17	77
富山県	3		1	2	6
石川県		4	2		6
福井県			1	1	2
山梨県			2	1	3
長野県	2	2	2	4	10
岐阜県		1			1
静岡県	1		1	2	4
奈良県	1				1
総計	41	40	39	40	160



概要

図書館は、学生及び教職員の学習・研究・教育に資することを目的として、図書、雑誌、DVDなどの視聴覚資料のほか、電子ジャーナルやオンライン電子ブックなど最新の学術情報の提供に努めています。

2019(平成31)年4月現在、学術書のほか教育・保育・栄養関係の資格図書や絵本、郷土資料など約12万冊所蔵しています。外国語図書は約2万冊、そのうちロシア語が約3,200冊、中国語が約900冊、韓国語が約4,200冊所蔵されています。雑誌は年間約240タイトルを受入れており、電子ジャーナルはアーカイブを含めると約1,300タイトル利用できます。2018(平成30)年度にはオンライン電子ブックを導入し、53タイトルが利用できます。年平均53,000人の利用があります。



施設・設備

現在の建物は1993(平成5)年1月に竣工し、図書館は大学の中心に位置しています。建物の3、4階に閲覧室を配置し、天井がドーム型になっています。書庫は2階にあるほか、閉架書庫を1階と3階に別室で配置しています。

2009(平成21)年の4年制化・新潟県立大学発足に際し、書架や閲覧席の増設に加えて、ブックディテクションシステムや利用者用ロッカーの設置など備品整備を行いました。また、利用者PC用無線LANアクセスポイントを導入しました。閲覧席は167席、利用者用PCが6台あります。蔵書検索はOPACで行い、大学院共同研究室所蔵図書も検索できます。

開館時間及び貸出条件の拡充

開館時間は9:00～20:00(休業期9:00～17:00)でスタートしましたが、学生から開館時間延長の要望が多く、現在は8:30から開館しています。2011(平成23)年7月から試行的に試験直前の土日に臨時開館を始めました。現在では試験期の2週間前の土日から臨時開館しています。

貸出冊数は、2014(平成26)年4月に学生を5冊から10冊に増やしました。貸出期間は、2012(平成24)年4月から雑誌を「3日以内」から「1週間以内」に延長し、図書は2018(平成30)年9月から、大学院生は「2週間以内」から「1か月以内」に延長しました。学部生は卒業研究履修生を対象に、申込制で「1か月以内」に延長できるようにしました。

学生希望図書制度と選書ツアー

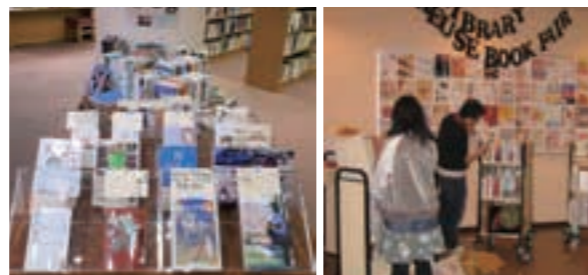
学生希望図書制度では、年間一人10冊以内、上限3万円で受付けていますが、さらに利用者増加の方策として学生に選書の機会を設けています。2013(平成25)年度から選書ツアーを年1回開催し、学生が書店で直接図書を選び、POPも作成し、館内で展示しています。保護者会からの補助金で購入しています。選書ツアーは、学生希望図書制度より購入図書の対象範囲が広いこともあり、参加者には好評を得ています。予約が続く図書が購入されることがあり、図書館にとっては学生ニーズを知る良い機会になっています。



展示図書とリユースブックフェア

選書ツアーの展示のほかにも数カ月ごとにその時期に応じたテーマ展示(新入生向け、就活特集など)を行っています。

また、連花祭では「リユースブックフェア」と題して図書館で不要となった図書を展示しています。



主なコレクション

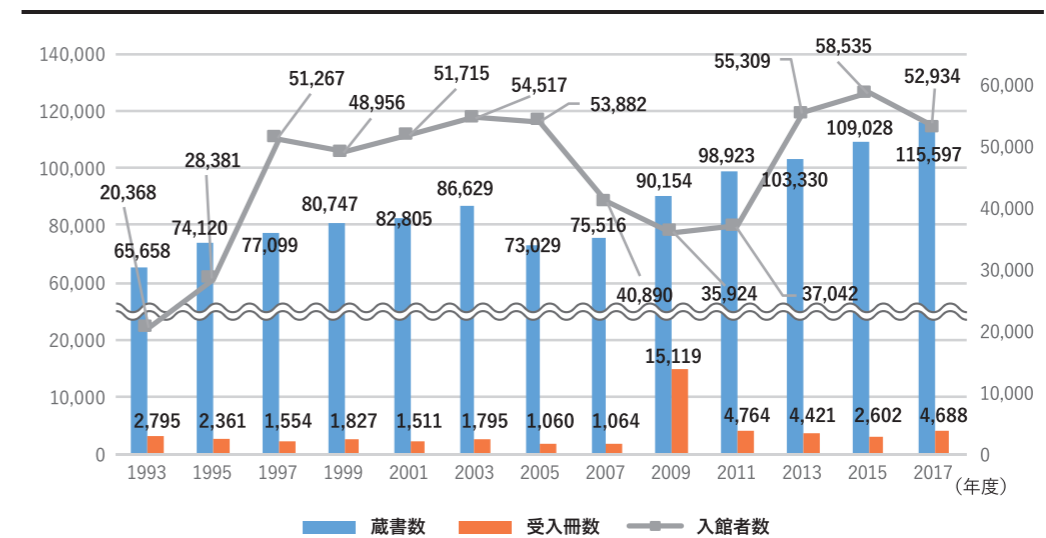
- 飯田文庫  
ロシア文学研究者で、県立新潟女子短期大学元学長の故飯田規和先生収集の、ロシアの文化や歴史、政治関係から民俗学まで、ロシア語の原書も含む、多岐に渡るコレクションです。
- 大山コレクション  
門外不出の時期もあった旧ソビエトや東欧を中心とする258本の映画のコレクションです。個人で収集された大山博様から寄贈されました。
- 日韓文化交流基金寄贈図書  
日韓文化交流基金図書センターの閉館に伴い、寄贈され、日韓関係や韓国・朝鮮を理解するのに役立つ図書を約5,400冊所蔵しています。

新潟県立大学学術リポジトリ

本学で生産された研究成果を電子形態で恒久的に蓄積・保存し、インターネット上に無償で公開しています。本学の研究・教育の発展に資するとともに、社会貢献に寄与することを目的として、2009(平成21)年9月に新潟県地域共同リポジトリに参加する形でスタートしました。本学学部の学会誌である国際地域研究学会の『国際地域研究論集』と新潟県生活文化研究会の『人間生活学研究』や本学をベースに活動している新潟県生活文化研究会の会誌『新潟の生活文化』も登録しています。また、『県立新潟女子短期大学研究紀要』など短期大学の研究成果も登録しています。2019(平成31)年3月にクラウド型のシステム「JAIRO Cloud」に移行しました。2019(平成31)年3月末現在のコンテンツ数は919件です。

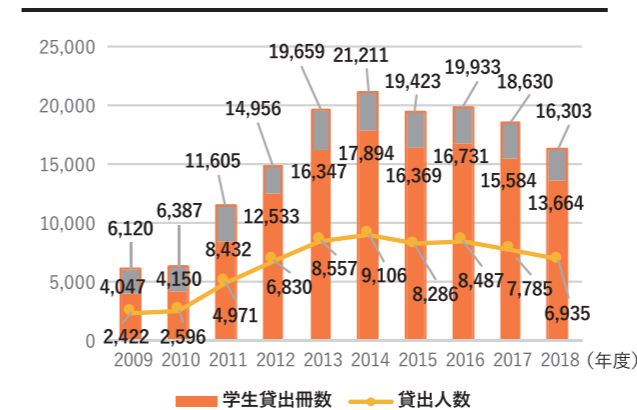
図書館統計

蔵書数、入館者数推移

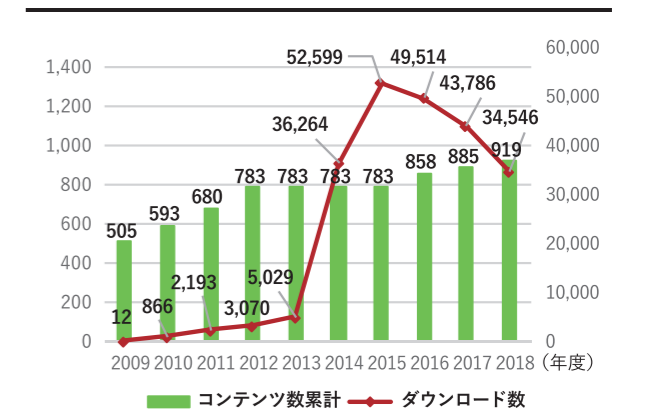


1993(平成5)年、短大強化拡充により現在の建物に移ってから入館者は激増します。4年制化後、数年は学生総数減少の影響を受けますが、完成年度以降はV字回復しています。受入冊数が倍増したことも一因かもしれません。

貸出統計

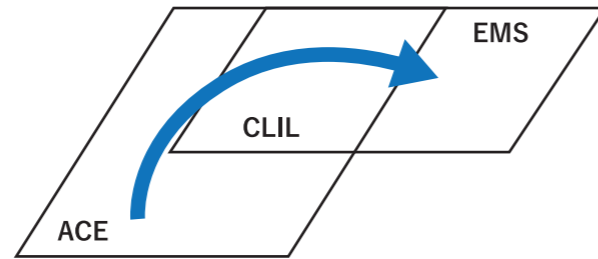


リポジトリ統計



英語をグローバルな環境で使える学生の育成

入学直後から全学の学生を対象に行われるACEプログラム。スキルに重点を置く科目から、段階的にCLILへ進み、さらに深める人のためのEMSへ。これが、「英語を」学ぶことから、英語を使って様々なトピックを学ぶ科目へと進み、最終的には、英語による専門科目の履修によって完成する、本学の英語教育の大きな流れです。



ACE(Academic Communicative English)

ACEプログラムは、コミュニケーションのための一般英語能力の伸長と、英語で学ぶための学術英語能力の伸長という二つの目的を持って組み立てられています。

国際地域学部では、開学時のACE科目は、必修と選択を合わせて20科目でしたが、その後のカリキュラム変更を経て、2019年現在、特定のスキルの伸長を図るSkills Classesが18科目、総合的にスキルの伸長を図るIntegrated Classesが16科目と、興味と目的と必要に応じてさまざまな選択ができます。さらに、内容言語統合学習(CLIL)のためのContent Classesが6科目おかれ、英語を使って学ぶ中で英語力の伸長を図ることができます。

EMS(English Medium Studies)

国際地域学部の「EMSモジュール」は、英語による専門的学修プランです。英語で行われる多数の専門科目が用意されているだけでなく、英語使用教員と日本語使用教員とがペアで担当するブリッジ科目が、それらを無理なく履修するための道しるべになっています。

EMSモジュールの修了者以外にも、英語で卒業論文を執筆し、発表会では英語でプレゼンテーションを行う学生が多くみられることは、本学の英語教育の結実といえます。

自律学習・協同学習

SALC(Self Access Learning Center)は学内でもっとも活気のある場所の一つです。ここでアクセスできるのは、自主学習教材だけではなく、常駐する英語メンターによるアドバイス、外国語学習という共通の目的をもつ仲間、LectureやWorkshopなどのイベント、楽しく外国語を使う行事などに会うため、常に学生が集っています。

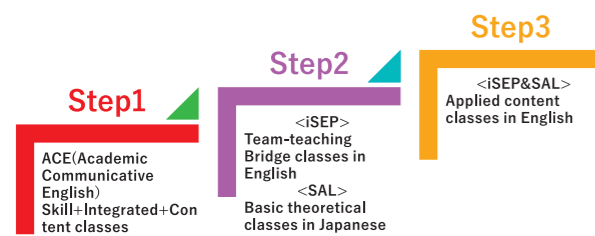
3つのCALL(Computer Assisted Language Laboratory)教室は、授業時間以外は自習開放され、CALL教材やe-Learning教材を使った自律学習が可能です。

海外研修、交換・派遣留学と学内留学体験

英語圏へは、3～5週間の海外英語研修や、1週間の海外実地研修などを実施しています。カナダやハワイの協定校への交換留学・派遣留学(期間は学生の希望に応じて2か月～1年)にも、多くの学生が赴いています。(詳細は次項「国際交流」をご参照ください。)

このほか、前述のEMSモジュールの学修、学内教員や特別講師が英語で話すSALC Lectures、学生が海外研修や留学、学習方法などについて報告するStudent Presentations、英語メンターが実施する英語学習講座であるEnglish Workshops (TOEIC, Writing, Presentation, etc.)、学生が外国語を使って交流するおしゃべりサロンなど、日常的に英語を使うESL(第2言語としての英語)環境に身を置く「学内留学」も、海外での研修や留学を補完する重要な体験になっています。

Structure of EMS



ロシア語・中国語・韓国語

国際地域学部では、2年次からロシア語・中国語・韓国語のいずれかを選択して学ぶことができます。最大で週に6コマ学べる、外国語大学以上のカリキュラムで、短期間で英語と同等か場合によっては英語以上の力をつけることもできます。

ロシア語・中国語・韓国語の語学授業では、全体のおよそ三分の一が、各言語のネイティブスピーカー教員によって行われており、多くの学生が高いコミュニケーション能力を身につけています。また、専門的な教育のほか、第二外国語として学ぶコースも用意されており、複数の言語を少しずつ学ぶことも可能です。

英語と同様に、SALCには自主学習教材が用意され、ロシア語・中国語・韓国語を使うイベントやグループ活動もあります。CALL教室やe-Learningを活用した自律学習も行われており、さまざまな語学検定試験を受けたり、学習成果を生かしてコンテストやボランティアに参加するなど、学外での活躍も光っています。

ロシア・中国・韓国への海外研修と交換・派遣留学についても、次項「国際交流」をご参照ください。



ロシア語だけを使ってロシア語を学ぶ授業

GP「環日本海圏新潟発の多文化リテラシー教育」

開学からの3年間(平成21年～23年)、文部科学省大学教育推進プログラム(Good Practice)に採択された「環日本海圏新潟発の多文化リテラシー教育—地域のグローバル化に対応する英語力の育成—」が実施されました。新潟港や新潟空港にほど近い大学として、地域のポテンシャルを生かし発展させることのできる人材の育成を目指した取り組みです。

20回を超える特別講義のほか、シンポジウム、ワークショップ、ロールモデルレクチャーなどを実施しました。また、このプログラムを活用して、コミュニケーション科目の少人数化、教材開発、英語資格試験の提供などによってACE科目を強化したり、CALL教室とSALCの設備やスタッフを充実させるなど、その後の外国語教育の基盤整備に大きく寄与するものとなりました。

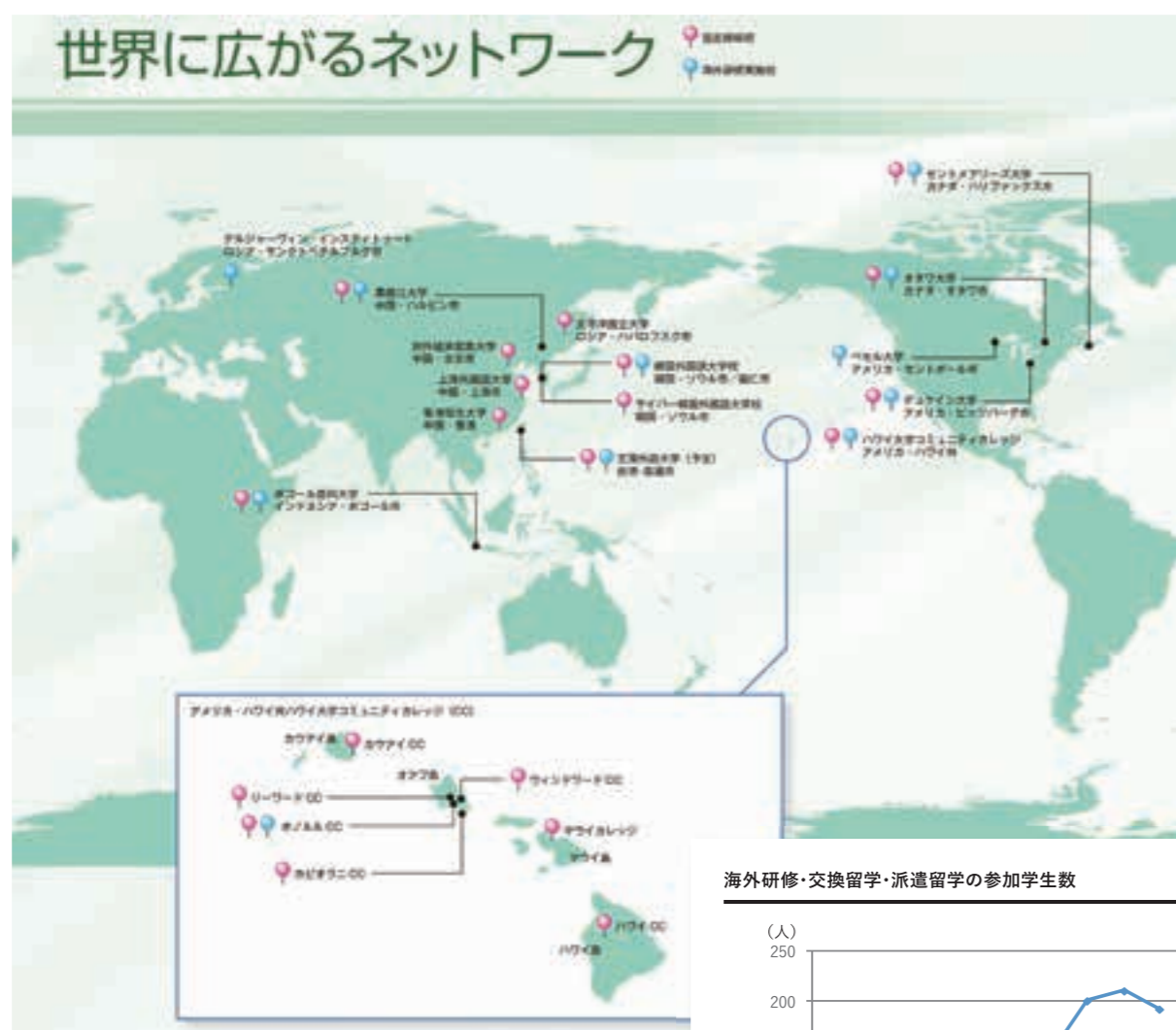


## 英語圏への海外研修と交換留学・派遣留学

2019(令和元)年現在、ミネソタ(アメリカ)、ピッツバーグ(アメリカ)への3週間の海外研修、ハリファックスまたはオタワ(カナダ)への5週間の研修が実施されています。事前学習を十分に行い、現地で多文化共生や都市の再生などのテーマやAcademic Englishを学んで、帰国後はその成果を発表するなど、多層的なプログラムになっています。また、人間生活学部では、幼児教育と栄養・食について学ぶ、1週間のハワイ研修を実施しており、学部の約4割の学生が参加しています。このほか、英語を使える海外研修としては、インドネシアで国際貢献を学ぶ1週間のコースがあります。

交換留学・派遣留学先となっている協定校は、デューク大学(アメリカ)・ハワイ大学コミュニティカレッジ(アメリカ)・オタワ大学(カナダ)・セントメアリーズ大学(カナダ)です。

### 研修・留学先



## ロシア・中国・韓国研修と交換留学・派遣留学

1週間前後の「実地研修」は、1年次から履修できます。ロシア語・中国語・韓国語を学んでいない人でも参加でき、その土地に行って街を歩き、文化を体感する研修です。

海外研修A(ロシア/中国/韓国)は4週間、研修Bは2週間で、それぞれ、サンクトペテルブルク・ハルビン・ソウルの大学や語学学校で言語を学び、寮生活やホームステイを体験します。言語を半年あるいは1年半学んで参加する人がほとんどで、それまでに身につけた語学力を磨き、その後の学びを深めるモチベーションのほか、卒業研究のテーマを得て帰国する人もいます。

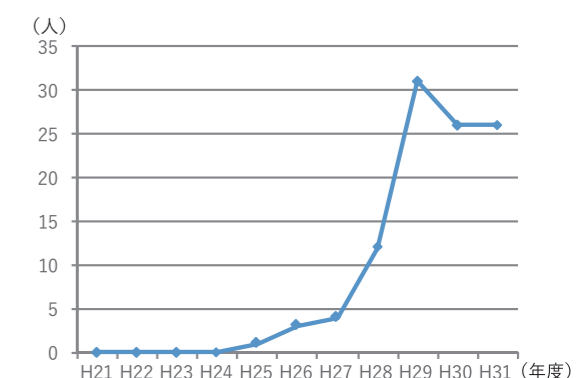
3年次以降は、交換留学・派遣留学を視野に入れる人も多くなります。太平洋国立大学(ロシア)・黒龍江大学(中国)・韓国外国語大学校(韓国)は、いずれも、短大(国際教養学科)の時代から交流を続けてきた協定校で、例年、合わせて20名ほどの学生が留学生活を送っています。

## 協定校からの交換留学生

2013(平成25)年以来、交換留学協定をもつ大学からの留学生を、「特別聴講学生」として受け入れています。協定校のネットワークが広がるにつれて、交換留学生も増加し、2017(平成29)年には年間で30名を超えるまでになりました。

この結果、学生の間で国際交流への意識が高まり、留学生サポーターとなって日本語学習や生活面を支える学生も増加するなどの波及効果が出ています。学内外での交流も活発となって、SALCのイベントや地域のお祭りなどに留学生ともども参加する姿も見られます。留学生に接したことがきっかけとなって、改めて留学に意欲を持つ学生も増加しています。

本学で学ぶ留学生の数



## サマーセミナー

本学が主体となって2013(平成25)年8月から実施している短期セミナーです。初年度は、ロシア・中国・韓国の3か国の協定校の学生と、本学の学生が参加する形で行われました。その後、本学の国際交流の拡大とともに海外からの参加が増加し、日本からも、新潟県内外の大学の日本人学生・留学生が参加するなどしています。

セミナーでは、特別講義のほか、ワークショップ・地域見学・地域交流・グループワークと発表などを、英語と日本語を使って行います。

2018(平成30)年度には、「『食』を通じて新潟の魅力の世界に伝える」をテーマに、日本・中国・台湾・香港・韓国・インドネシア・カンボジア・ベトナム・アメリカ・ロシア・フランスから、本学学生を含む計40名の学生が集い、ともに学びました。



## 多様な国際交流事業への参加

JICE(一般財団法人日本国際協力センター)の国際交流プログラムに応募して、選考を経て派遣されました。2016(平成28)年3月の「KAKEHASHI」プロジェクトでは、アメリカ・インディアナポリスに学生23名+教員2名が、2017(平成29)年3月の「JENESYS」プロジェクトでは、マレーシア・クアラルンプールに学生7名が、それぞれ8日間派遣されています。また、内閣府青年国際交流事業(ビルマ)や、日本・中国青年親善交流事業に応募、選考を経て派遣されるなど、交流の場が広がっています。

概要

本学は、地域に根ざし、世界にはばたく人材の育成を目指し開学しました。その中で、キャリア支援センターは、教職員が一丸となって学生を支援する環境づくりに努めてきました。

学生に入学直後から将来のキャリアプランを考えてもらうため、1年生から参加できるインターンシップに関する情報を提供しています。さらに、1年生対象の「大学生生活の過ごし方講座」、2年生対象の「進路ガイダンス」に始まり、3年生の後期からは週2回の就職ガイダンスを本格的に開催して、「自己分析講座」「業界研究講座」「SPI試験対策講座」「卒業生のお話を聴こう」などの充実した就職支援講座やガイダンスを実施しています。また、就職活動解禁後は、エントリーシートの添削、個別面接対策など、学生との面談を交えながら、一人ひとりにきめ細かい指導を行っています。

キャリア支援センターでは、手厚い指導体制のもと、在学生の就職活動を支援しています。



就職ガイダンス



インターンシップ マッチングフェア  
キャリアハンドブック



新潟県立大学主催  
合同企業説明会

在学生の就職活動体験談

<就職活動(就活)の体験>

3年生の初めから本格的に就職ガイダンスが始まり、ほぼ毎回、出席しました。1年間を通した就職ガイダンスという、長期的な取り組みがとても役に立ちました。業界研究セミナーではOB、OGが来て話してくれたことで、それまで知らなかった業界、企業を知ることができました。マナー講座では他の学生とのロールプレイなどの実践から社会が求めるマナーを知ることができ、マナーを客観的に見つめなおすことができました。合同企業説明会では卒業生のいる職場であることからより親近感が生まれ、それが就活へ向かう勢いになりました。インターンシップは自分の関心を広げるため業界をしばらず10社に参加しました。人事の方とも個人的に話す機会をなるべく見つけ、そこから企業・業種の間で意外なつながりがあることを発見することができました。

キャリア支援センターの職員のみなさんには大変お世話になりました。職員それぞれが得意分野を持っている点が良く、安心して相談することができました。面接練習も職員と行いましたが、想定していない質問が来た場合の良い練習になりました。そして、新聞を読んだり、受験報告書で情報収集を行うことで万全な準備を行うことができました。

<振り返って>

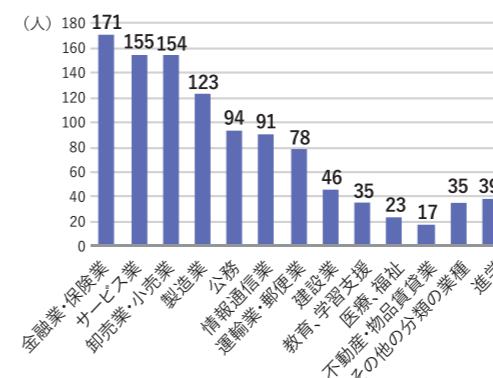
最初は、自己分析がうまくできないこともあり、不安しかありませんでした。しかし就活が始まってからは、キャリア支援センターの職員の方と相談しながら進めることができました。そして就活の不安や迷いは様々なことを考えるきっかけとなり、就活を通して自分自身の成長に繋がったと実感しています。

国際地域学部 国際地域学科(8期生)  
梅田紘花さん

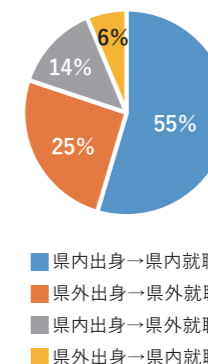
卒業生の進路状況

国際地域学部 国際地域学科

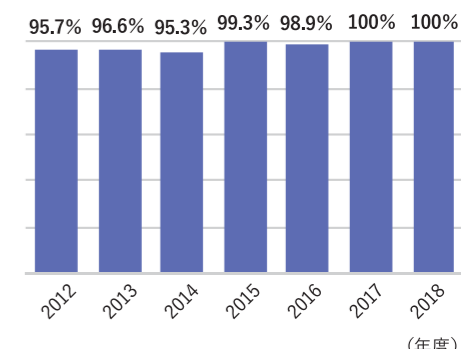
業種別進路先



県内県外別

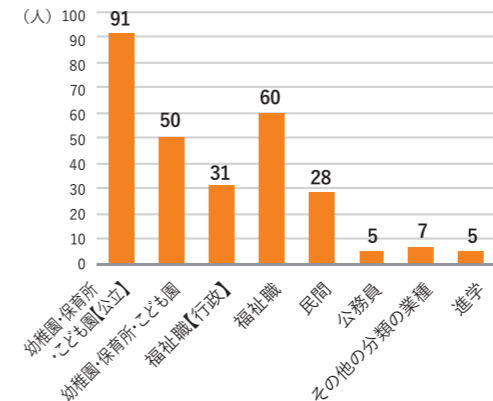


進路決定率

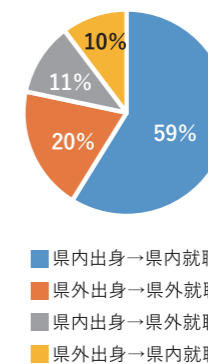


人間生活学部 子ども学科

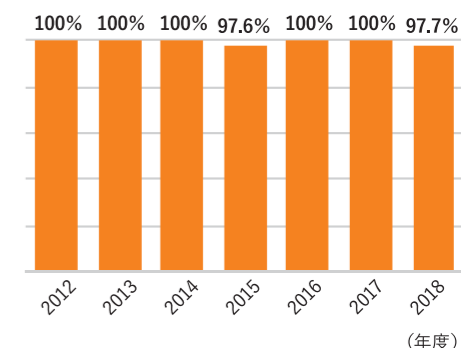
業種別進路先



県内県外別

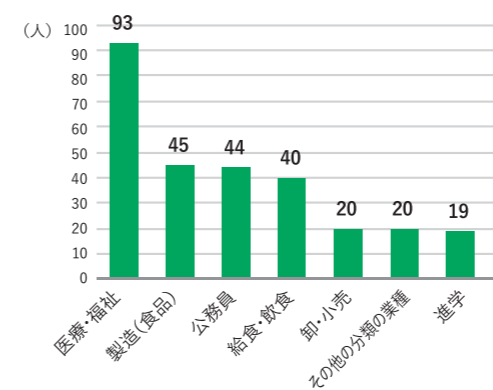


進路決定率

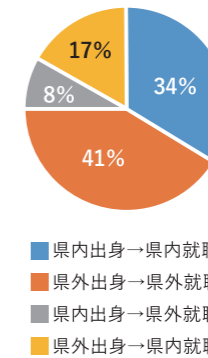


人間生活学部 健康栄養学科

業種別進路先



県内県外別



進路決定率



アドバイザー教員制度

学生一人ひとりに対して教員がきめ細かく指導し、相談に応じる「アドバイザー教員制度」を開学時より採用しており、すべての学生に1名の教員がアドバイザーとなり、入学時から学習及び学生生活に関する問題や悩み、進路に関する相談に応じています。また、研究室ごとに「オフィスアワー」(教員が学生指導や相談のために確保している時間)を設け、相談しやすい環境づくりに努めています。

フクさん相談室

フクさん相談室は、学生がより充実した学生生活を送ることができるようサポートするメンタルヘルス相談室(カウンセリングルーム)です。学外のカウンセラー(臨床心理士)が学生の悩みや迷い、友人や家族のことなど、一緒に話し合ったり、考えたりする場として利用されています。2016(平成28)年度にはカウンセリングルームを増設・改装し、2018(平成30)年度には「メンタルヘルス相談室」から「フクさん相談室」に名称変更しました。



※フクさん=フクロウ(不苦勞=縁起がよい鳥)をモチーフに名付けられました。

障がい学生支援

障がいにより学生生活を送る上で特別な配慮を必要とする学生を支援するため、「チームでの対応」をコンセプトに、障がい学生支援委員会(必要に応じて学生支援チームを発足)が中心となり、アドバイザー教員、事務局、保健室、カウンセラーが保護者と連携をとりながら全学で支援する体制を整えています。



日本学生支援機構奨学金貸与状況

日本学生支援機構の奨学金貸与事業は、教育の機会均等の理念のもと、意欲と能力のある学生等が、自らの意志と責任において大学等で学ぶことができるよう、国の重要な教育事業として実施されており、利息の付かない第一種奨学金と、利息の付く第二種奨学金があります。

(単位:人)

	2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度
(a)第一種	258	285	302	320	335
(b)第二種	323	287	279	232	200
(c)上記のうち、併用者	51	45	44	37	36
貸与者数(a)+(b)-(c)	530	527	537	515	499
在籍者数	1,049	1,079	1,130	1,121	1,132
受給率	50.5%	48.8%	47.5%	45.9%	44.1%

※貸与者数及び在籍者数は各年度末の数

授業料減免

経済的な事情や天災などの特別な事情により授業料の納付が困難な場合は、申請により授業料が減免されることがあります。該当者は、原則全額が免除されます。

(単位:人)

2009(平成21)年度		2010(平成22)年度		2011(平成23)年度		2012(平成24)年度		2013(平成25)年度	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
21	21	34	36	46	47	55	53	32	36

2014(平成26)年度		2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
34	25	28	28	38	37	45	40	37	32

※県立新潟女子短期大学生は除く

学修奨励金

2016(平成28)年度から、学業成績が優秀でかつ授業料減免には該当しないが経済的に困窮している学生を対象にした本学独自の給付型奨学金制度を行っています。該当者には1人10万円が給付されます。

(単位:人)

2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度
14	18	8



「学友祭」から「連花祭」へ

県立新潟女子短期大学学友会主催の「学友祭」は、新潟県立大学との合同開催で行われた2009(平成21)年第47回開催「LOVE〜ありがとう県短いぞ県大!」を最後に、2010(平成22)年からは新潟県立大学学生自治会が主催する「連花祭(れんがさい)」が誕生し、短大からの伝統が受け継がれています。

連花祭という名前は、1つ目に大学の校舎がレンガ造りであること、2つ目に大学周辺に季節の花々が咲き連なること、この2つの意味を合せて名付けられました。

連花祭パンフレット表紙



連花祭ゲスト

- 2009(H21)年 犬の心、えんにち、オオカミ少年、2700、ハローケイスケ、デッカチャン、椿鬼奴
- 2010(H22)年 Negicco
- 2011(H23)年 スピードワゴン、ななめ45°
- 2012(H24)年 東国原英夫(元宮崎県知事)
- 2013(H25)年 島田秀平
- 2014(H26)年 柳沢慎吾
- 2015(H27)年 小島よしお、Gたかし
- 2016(H28)年 (ゲストイベントなし)
- 2017(H29)年 あべこうじ、ザ・パンチ、ムーディ勝山、鬼越トマホーク、おばたのお兄さん
- 2018(H30)年 (ゲストイベントなし)

体育祭

毎年5月に学生自治会の企画・運営で開催される体育祭。県立新潟女子短期大学時代から受け継がれている伝統的な行事は、学部学科を越えた学生同士のつながりの場として、毎年多くの学生が参加しています。



サークル一覧(2019(令和元)年度)

地域や社会との接点のある活動を展開するボランティア系サークル、交流戦や大会での勝利を目指して日々汗を流すスポーツ系のサークル、日本や海外の文化に触れる文化系のサークルなど、多くのクラブ・サークルが誕生してきました。ここでは2019(令和元)年度のサークル一覧を紹介します。

運動系クラブ・サークル

- 軟式野球部
- サッカーサークル
- バレーボールサークル
- てにさー(テニスサークル)
- バスケットボールサークル
- バドミントンサークル
- 卓球サークル
- ダンスサークルBEAT
- ラクロス部
- 総踊りサークル天舞音

文化系クラブ・サークル

- 吹奏楽サークル
- 軽音サークル
- アコースティックサークル
- mash#POTATO(アカベラサークル)
- 書道サークル
- 茶道部
- Switch(写真サークル)
- Eiサー(英会話サークル)
- 韓国サークル
- ロシアサークル
- 緑花戦隊カダーン(校内緑化)
- テルテルボーイズ(子ども向けボランティア)
- 管弦楽団
- 食育ボランティアサークル
- 日本赤十字サークル
- まちづくりサークル
- rueng(ボランティアサークル)
- PEANUT(ボランティアサークル)
- 人形芝居サークル
- 新潟県立大学ESS
- 寺100サークル
- HABATAKE
- ピアノ会

学生団体

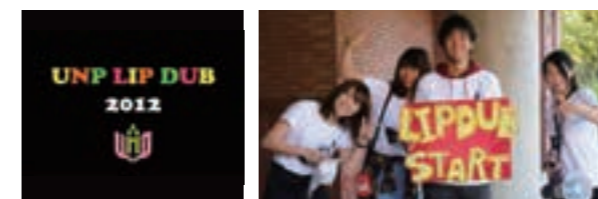
- 生協学生委員会ちゅーりっぷ
- 夢力プロジェクト(イベント)
- 国際交流ファシリテーター



夢カプロジェクト「LIPDUB(リップダブ)」

新潟で学生が一番イキイキした大学にするために発足した学生団体。「新潟県立大学の魅力を発信していこう」をテーマに掲げ、学生が大学PR動画「LIPDUB」を2011年から毎年自主制作して、YouTubeで動画配信しています。

YouTube 新潟県立大学 LIPDUB



友作祭(ともさくさい)

生協学生委員会が主催する新入生歓迎会。4月からの新生活を前に少しでも不安や疑問を解消してもらい充実した大学生活を送って欲しいと、学生の思いから始まった交流イベントは、毎年多くの新入生が参加し、友人づくりの場になっています。



県立新潟女子短期大学校章(制定年不詳)



県立新潟女子短期大学学生歌(第一学生歌 1964(昭和39)年、第二学生歌 1966(昭和41)年制定)

短大開学の翌年、家政科2回生が入学した1964(昭和39)年に、学生たちの意思で第一学生歌が作成され、翌年3月の第1回卒業式で歌われました。作詞は被服専攻1回生の神田節子さん、作曲は被服専攻2回生の高山久代さんでした。その後、第2回の卒業式でもこの学生歌が歌われました。

家政科4回生が入学した1966(昭和41)年は、英文科と幼児教育科ができてこれらの学科の1回生が入学した年です。この年、新しい学生歌を作りたいという学生たちの思いから第二学生歌が誕生しました。作詞は被服専攻3回生の丸山静子さん、作曲は被服専攻3回生の木下敦子さんでした。第一学生歌の作詞をした高山久代さんが卒業後に朝妻康二先生の研究室に残っていて、二人の取り組みをサポートしました。この学生歌に込められた思いは、女子教育の向上、そして幅広い教養を身に付け、四年制大学に劣らず新潟県にとってよき人材となって活躍することを目指す、というものでした。第一学生歌があるにもかかわらず、第二学生歌を卒業式に歌いたい旨を伝え、当時の学友会は、学生総会でまず歌い、そこで承認するかどうか問うことを決め、学生総会にて斉唱で歌い、承認されました。その結果、翌年3月の第3回卒業式では、第二学生歌が歌われました。同年4月に着任された永澤亀先生が第二学生歌を三部合唱曲に編曲され、以降の短大卒業式では、この第二学生歌が三部合唱で歌われることとなりました。

(以上の学生歌がつけられた経緯は、同窓会『かざし会』会長の白井智佳子さんが、学生歌を作りたいという学生の思いをサポートされてきた長井春海先生から聞きとってくださった内容です。)

県立新潟女子短期大学学生歌 第一学生歌. Musical score with lyrics in Japanese and English.

県立新潟女子短期大学学生歌 第二学生歌. Musical score with lyrics in Japanese and English.

新潟県立大学校章(2009(平成21)年制定)



422点の一般公募から選ばれた校章は、University of Niigata Prefectureの頭文字、「UNP」の3文字を使用し、全体像としては、新潟県の花に制定されている「チューリップ」を表現したものです。図案中央の「N」にあたる部分は、花の「めしべ・おしべ」を図案化していますが、3人の人(産・官・学や学生・市民・外国人、等)が肩を組み合って協調している様子を重ね合わせています。配色については、人々の交流や人間性の涵養を重視していることから、穏やかで暖かみのあるピンクと、植物のような成長をイメージさせる黄緑を採用しました。

- デザイン: 佐藤 信幸さん(新潟市)
■コーディネート: 新潟大学教育学部 橋本 学 准教授

新潟県立大学学生歌(2013(平成25)年制定)

2013(平成25)年3月、第1期卒業生を送るために制作された学生歌。作詞、作曲は学生からの公募で、歌詞に新潟県立大学の特徴を示す「赤レンガ」「イチョウ並木」など、学生自身がアンケートで寄せた言葉を散りばめています。学生自ら考えた詩と曲で制作された学生歌は、新潟県の泉田知事(当時)にも披露されました。

作詞は新潟県立大学学生歌作成実行委員会、作曲は国際地域学部国際地域学科3期生の道前はづきさんと野島萌子さん、編曲は人間生活学部石井玲子教授です。



明日の向こうへ

澄んだ空を見上げて
並木道を歩けば
思い浮かべる友の笑顔
夢抱き歩いて行く

潮の香り感じる
大きな海みたいに
キズナの輪がつながって
支え合いまた歩き始める

僕らが見つめる先には
真っ白で新しい景色
僕らが歩んできた跡に
確かに輝く光

僕らが見つめる先には
真っ白で新しい景色
僕らが歩んできた跡に
確かに輝く光

僕らもつこの翼を
今、広げ 舞い上がるその時
行く手をささげる壁さえ
飛び越え未来へ進む

赤レンガに刻み込んだ
思い出を 重ね合わせながら
この街、今この場所(新潟県立大学)から
確かな未来へ進む
まだ見ぬ明日の向こうへ

Musical score for '明日の向こうへ' (Towards Tomorrow), featuring voice and piano parts.

Musical score for '明日の向こうへ' (Towards Tomorrow), featuring piano accompaniment.

Musical score for '明日の向こうへ' (Towards Tomorrow), featuring piano accompaniment.